

こどもみらい館 第三期研究プロジェクトメンバー募集

こどもみらい館では、保育園(所)・幼稚園、私立・市立・国立の垣根を越えた「共同機構」として、保育内容の更なる充実・発展や子育て支援を目指した研究事業を推進しています。現在、第三期の研究プロジェクトメンバーを募集中です。

子どもの育ちの連続性研究プロジェクト

- 1 課題 保育の質の向上と子どもの育ちの連続性の考察。
- 2 目的 小学校との連携や交流等から保育を振り返り、就学前の子どもたちが小学校への憧れの気持ちを持ち、自信や自己肯定感を持って就学していくためには就学前施設(保育園(所)・幼稚園)において何を大切にしていける必要があるのか、また、保育の質と子どもの連続した育ちについて考え、「心の育ち」を大切にしたい保幼小連携につなげます。
- 3 テーマ 具体的なテーマ・手法等は、参加メンバーによる第1回会議(日程は別途調整)で協議します。
- 4 任期 平成24年内中から平成27年3月

子育て支援研究プロジェクト

- 1 課題 保育園(所)・幼稚園における子育て支援について調査及び考察。
- 2 目的 さまざまな機能を持つ子育て支援施設の視察、関係機関職員との意見交換等を通し、なぜ、就学前施設(保育園(所)・幼稚園)が子育て支援をしなければならないのかということ、「子育て支援担当者」の視点と「保護者」の視点から検証し、子育て支援の意義やあり方を考察します。
- 3 テーマ 具体的なテーマ・手法等は、参加メンバーによる第1回会議(日程は別途調整)で協議します。
- 4 任期 平成24年内中から平成27年3月

現在、各園(所)に「参加申し込み票」を配布しています。「子どもの育ちの連続性」、「子育て支援」について、是非研究してみたいと思われる方は、「参加申し込み票」に必要事項を記入のうえ、平成24年9月10日(月)までにこどもみらい館にご提出いただきますようお願いいたします。

京都市私立幼稚園協会共催

子どもの心を育てる保育と園内研修

講師 鯨岡 峻 中京大学教授

中京大学発達心理学教授。京都大学名誉教授。専門分野は、発達心理学、発達臨床心理学、保育心理学。著書に「障害児保育」「保育のためのエピソード記述入門」他。「両義性の発達心理学」は1999年日本保育学会学会賞(文献賞)を受賞。

いま、園内研修を通して保育の質を高めるといわれています。保育とは、毎日の振り返りが絶対欠かせない仕事です。振り返るから保育が活性化していく、保育の質が高まっていくのだと思います。

手前味噌になりますが、私はエピソード記述を提唱し、保育者の皆さんが自分の保育をエピソードに書いてそれを園内の職員皆で読み合って意見を交し合い、それによって保育を磨いていくというふうに、園内研修は保育をエピソードに書いて読み合うという形が一番多いと思っています。そして、そういう形の園内研修に参加した保育者からは、自分の保育の営みの重みがだんだん分かってきて、「保育の仕事について良かった」「自分がこれほど重い仕事をしているという保育の意義が分かった」という感想が述べられます。

園内研修をどうやって持っていくかということにはもう一つ大きな問題があります。つまり、それぞれの園がどういう保育を目指しているか、そのことを問わないままに、ただ園内研修をすればよいとか、自己評価をすればよいとかいう議論は私はどうかと思っています。子ども一人ひとりの心に目を向けて、一人ひとりの子どもの心がどんなふうに充実しているか、あるいはどんなふうに陰りを持っているか、それを見て、それをどんなふうにしていくことがその子にとって望ましいことなのかということを考えていく、そういう保育を目指されなければと思っています。〈参加者のアンケートより〉

「子どもの成長を感じるためや自分の保育を見直すためにも、エピソードを書いて、園内研修をして、皆で共通理解ができるようになってほしいなと思いました」「エピソードを通して、自分の考えや心の動き、そのときの子どもの心の動きをしっかりと見つめたいと思いました」という感想がありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。貸出要項へ
講義の詳細は、要録ページをご覧ください。要録ページ

京都市保育園連盟共催

乳幼児の育ちの理解と保育の質

講師 大宮 勇雄 福島大学教授

福島大学人間発達文化学類教授。日本保育学会、日本教育学会に所属。研究分野は、保育・幼児教育。「保育の質」や「子ども理解」をテーマにしている。著書に「保育の質を高める」「学びの物語」の保育実践「子どもの心が見えてきた」等。

保育の質には、「プロセスの質」「構造の質」「労働環境の質」の3つがあります。プロセスの質が保育の質のすべてではないことを理解したうえで、プロセスの質について考えたいと思います。プロセスの質とは、直接子どもの成長に影響するような日々の保育の中で起きていることです。そして、保育者と子どもの日々のやり取りのようなものが、子どもの成長にはとても大事です。子どもの成長が何かは難しいところですが、友達とともに何かをやろうとする姿勢や、自分から学ぼうとする意欲を経験することが大事です。今を最もよく生きようとする保育が未来を形づくるということが、プロセスの質の考え方です。

保育の質は保育者と子どもの関係の質といわれます。では、子どもをどう見るかです。子どもの立場に立って「関心」「熱中」「チャレンジ」「コミュニケーション」「相手の立場に立つ」の5つの視点から子どもの育ちを捉えることが大切です。子どもの視点から見たら、そこから明日の保育を考えることです。子どもの見方を変えたら、その子の可能性が見え、その子に合った保育ができます。保育者の専門性は一人ひとりの子どもの可能性が見えることだと思います。それは一朝一夕にできることではなく、続けていくことが大切です。

〈参加者のアンケートより〉

「一人ひとりの子どもの可能性が見える保育者としての専門性をもっと研ぐためにも、仲間と共に子どものことを多く話し合っ、いろんな視点で子どもを見ていきたいと思いました」「子どもに育てたい力について再認識できたように思う。明日から子どもと接するときに自分がどう見るのか心して保育したいと思う」という感想がありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。貸出要項へ
講義の詳細は、要録ページをご覧ください。要録ページ

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を
進めます。
(「子どもを共に育む
京都市民憲章」より)



2

発行日 平成24年8月15日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883
中京区間之町通竹屋町下る
Tel (075)254-5001 Fax(075)212-9909
URL http://www.kodonomirai.or.jp